

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『図録全国の美しい御朱印』 八木 透/監修

マイナビ出版 2017.7 186.91/¥177/

今や旅好きの女性を中心にブームとなっている「御朱印めぐり」。全国各地を回り寺社の御朱印集めをするのが人気です。そもそも「御朱印」とは何か、御朱印を受ける際のマナーは？など素朴な疑問に対する解説とともに、日本各地の精選された美しい御朱印を紹介しているのがこの本です。寺社の住所やアクセス方法、授与時間も記載されているので実際に「御朱印めぐり」に行ってみたい方必見です。

『恐竜探偵足跡を追う 糞、嘔吐物、巣穴、卵の化石から』 アンソニー・J. マーティン/著 文藝春秋 2017.8 457.87/¥178/

「恐竜の化石」と聞くと、骨や角、歯といったものを思い浮かべる方が多いと思います。この本では、化石は化石でも足跡や這い跡、巣穴や糞等の生物の行動の痕跡が残された化石「生痕化石」の研究を紹介しています。古生物学者で生痕学の第一人者と目される著者が、生痕化石を手掛かりに食生活や子育てといった恐竜の生態に名探偵の如く迫ります。著者の生痕学への情熱に引き込まれる一冊です。

『マーヤの自分改造計画 1950年代のマニュアルで人気者になれる?』 マーヤ・ヴァン・ウァーグネン/著 紀伊國屋書店 2017.4 376.353/¥174/

本書はアメリカでベストセラーになった、10代の少女の実録・奮闘記です。彼女が取り組んだのは、自分を変えること。スクールカーストで低い地位にいると感じている少女が、悩みながらも他人のせいせず、人気者を目指します。1冊の古本を参考に、外見も内面も魅力的にしたいと四苦八苦。パールをつけたレトロな服装で学校に行くことになります。ユーモアを忘れずに、自分が何をしたいのか見つめ努力する姿は、若者らしくさわやかで勇気を与えてくれます。

児童・児童図書研究

『子どものアトリエ 絵本づくりを支えたもの』

西牧茅子/著 こぐま社 2017.4 J726.6/ニ

今年デビュー50周年の絵本作家、西牧茅子氏のエッセイ集です。デビュー当時のことやご自身の子育てのこと、作家として大切にしていることなど、様々なことを書かれています。とりわけ幼少期の思い出が生き生きと描写されており、子ども時代の体験がその後の人生にとっていかに大切かを語っています。

西牧氏の作品には『わたしのワンピース』『ふんふんなんだかいいにおい』『えのすきなねこさん』『ちいさなきいろいかさ』などがあります。

雑誌・新聞

今年7月に英国とフランスが、資源や環境問題への関心を受けて2040年までにガソリン・ディーゼル車の販売を禁止することを表明しました。それに追随する国もあり、世界規模でEV(電気自動車)への移行が加速しています。日本のメーカーも開発に力を入れるEVに関する特集・記事をご紹介します。

*特集 パナソニック・トヨタが挑むEV覇権

『週刊ダイヤモンド』2017.10.21日号 Z/330.5/S7

*特集 日本経済の試練 EVショック

『東洋経済』2017.10.21日号 Z/330.5/T4

*特集 EV革命100兆円

『エコノミスト』2017.9.12日号 Z/330.5/E1

*「マツダと提携したトヨタの凄み 世界を変えるEV電気自動車革命」

『サンデー毎日』2017.10.22号 p.150-153 Z/051/S18

*連載 「EVシフト」の実像(全5回)

『日刊工業新聞』2017年10月5日~10月17日

*連載 EV大転換(全3回)

『日本経済新聞』2017年8月9日~8月11日

地域

『只見町の川地図』 風光舎/制作 只見町プラザセンター [201-] L452.9/T3/1

自転車でお手紙の主の思い出の場所に行くという某番組で、目的の地名の場所が分からず地元のお婆さんに聞いてやっと判明した回がありました。地名というのは意外と失われてしまうものです。

この『只見町の川地図』は川を利用してきた人々によって名づけられた川の名前が廃れてしまう前に、聞き取りによって作成された川の地図です。地形図には名前の載らない小さな沢の名前までしっかりと記載されています。

『黄砂の籠城 上・下』 松岡圭右/著 講談社 2017.4 L913.6/M42/1

明治33年(1900)夏、清国首都・北京の公使館区域を民衆と清軍が包囲・襲撃し、日本を含む列国の兵士や民間人らは約60日に渡る壮絶な籠城戦を強いられます。圧倒的戦力差に加え物資・弾薬の不足、内通者による陰謀等に対し、敢然と立ち向かうのは後に会津藩出身者として初の陸軍大将となる駐在武官・柴五郎中佐と、配下の日本兵たち。後に「北清事変(義和団事件)」と呼ばれる絶望的状况下で、日本人としての誇りを失わず戦う彼らを描いた歴史小説です。

柴の他にも、本県出身者として二本松出身の哲学者・服部宇之吉が登場し、活躍しています。